平成 27 年度 後学期
お茶の水女子大学 生活科学部 特別設置科目のご案内
（ECCELL 社会人プログラム）

前学期は、**月・水・木曜**の 11・12 限（18：20～19：50）に 1 科目ずつ、集中講義で 2 科目、合計 5 科目が開講されます。

【後学期】
月曜日 ：子どもと家族Ⅱ
水曜日 ：乳幼児教育・保育政策論Ⅳ
木曜日 ：現代保育課題研究Ⅹ
集中講義：比較保育実践研究Ⅴ
集中講義：子ども家庭支援相談Ⅳ

子どもと家族Ⅱ 2 単位 **月曜日** 18：20～19：50
担当： 加藤 邦子（宇都宮共和大学子ども生活学部 教授）

主題と目標

主題：少子高齢化社会における子育て支援の具体例を挙げながら、乳幼児期の子どもと家族に関する理解を深める。親子から仲間への移行が早まっていることを踏まえ、家族および社会的育児の協働によって子どもの発達支援につながることを理解できるようにする。また、保育の可能性と限界を踏まえて他の資源と連携できるように、政策、地域、生涯発達の視点から乳幼児期の支援のあり方を探究する。

到達目標：現代社会において、「親」を支援することは子どもの健やかな発達を考えていくための基礎となるものである。子どもと家族について、環境・心理・社会的側面から包括的にとらえられること、生涯発達の視点からとらえられること、子育て支援のコーディネートのあり方など、子どもと家族について生活基盤に軸足を置き，幅広く理解できるようになる。さらに気になる親子、虐待などの具体事例を読み理解できるようになる。家族が社会的資源と連携していけるように、きめ細かな支援のあり方について理解を広げる。各自の関心に応じて課題をもち、自らの視点を取り入れてまとめ、発表し意見交換する。

受講条件・その注意

講義形式ですが、討論の時間を設けるので、意見を交換したり、質問するなど積極的に参加すること、授業の中で紹介した教材などを用いて、自分らしい視点を入れてまとめ、みなさんの前で発表すること。

授業の形態

■講義 ■討論 □講読 □実験 □実習 □実技 ■発表 □演習

教科書・参考図書

授業の中でプリントを配布します。参考文献は紹介します。

評価方法・評価割合

■ 出席（割合：30%）
■ 発表（割合：70%）

授業計画・日程

１．10／５（月）
保育現場で子どもだけでなく家族を対象とする意義と子どものウェルビーイングについて理解する。「家族」の捉え方・多様性について考える。

２．10／12（月）
家族はどう変わってきたのかを理解し、子育てが難しくなった背景について学修する。支援する必要性と保育現場における支援の基本原理を理解する。新聞記事などから考察する。

３．10／19（月）
現代の家庭の背景を踏まえ、子どもにどのような影響を及ぼしているかを考えるために、具体的事例をもとに学ぶ。

４．10／26（月）
少子化対策から子育て支援・次世代育成支援への変遷について考え、家族の背景には時代的変化、環境の変化、制度など社会のしくみの変遷があることを理解する。

５．11／2（月）
結婚・周産期・子育て・子どもの離家・高齢期など、家族構成員それぞれの生涯発達的視点から捉えて理解する。

６．11／9（月）
子どもの発達に応じたワーク・ライフ・バランスのあり方と子育て支援との関連性について理解を深める。

７．11／16（月）
きょうだい、祖父母について取り上げることによって、家族内の関係のあり方、世代間関係、さまざまな家族の姿について理解を広げる。

８．11／23（月）
父子家庭、母子家庭、ふたり親家庭とセーフティネットについて理解する。さらに他の諸国の福祉政策と比較することによって、広い視野から日本の家族について考える。

９．11／30（月）
乳幼児期の発達と家族との相互作用について、親子から仲間への移行期の支援の具体的事例をとりあげて考える。（気になる子ども、気になる親子）

10．12／7（月）
家庭における養育と社会的育児とのつながりについて、子どものウェルビーイングの視点から学修する。

11．12／14（月）
親密な関係における暴力、虐待などさまざまな家族の病理についてとりあげることで、子どもと家族に対するアセスメントやその支援、他機関との連携のあり方を学ぶ

12．12／21（月）
地域における保育所・幼稚園・子育て支援施設の役割を理解する。

13．1／4（月）
親子支援の実践について学ぶ（見学）。

14．1／18（月）
これまで学んだことをもとに、諸外国の家族政策や実践について学び、日本とどのように異なるかを捉え、今後の日本の課題について理解する。

15．1／25（月）
家庭の多様性に対応した支援のあり方について考え、何らかの形でこれからの実践につなげられることを学ぶ。

学生へのメッセージ

生活場面での観察、対人関係、仕事、メディア、新聞記事、などさまざまな機会を通して、「子どもと家族」に関する疑問をもち、課題をもって学ぶことが大切であると思います。

乳幼児教育・保育政策論Ⅳ　　2 単位　**水曜日**　18：20～19：50

担当：　逆井 直紀（保育研究所 常務理事）

主題と目標

2015 年４月から、子ども・子育て支援新制度（以下　新制度）がスタートし、戦後築かれた幼児教育や保育の制度が、大きく切り替えられようとしています。また地域では、子ども数の減少を受けて、幼稚園や保育所の統廃合が進行しているところもあれば、大都市部のように保育所の待機児童問題が深刻化しているところもあります。

今まさに、日本の幼児教育や保育は転換期にあり、ここ数年で劇的な変化を遂げることになると予測されています。

実際に幼稚園・保育所等において日々行われている保育は、政策や制度の影響を大きく受けており、その制度・政策のありようを考えることは、保育実践を主体的に行う上で不可欠な作業といえます。

後期授業では、講義ごとに、子どもをめぐる社会状況や、施設の統廃合問題や保育所の待機児童問題など乳幼児教育・保育に関わる種々の社会的、政策的問題をテーマとして採り上げ、多彩なゲストスピーカーによる講演や、実際の保育の場を見学するなど、今後の乳幼児教育・保育のあり方をともに考えあうような内容を構想しています。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

■講義　■討論　□購読　□実験　□実習　□実技　■発表　□演習

教科書・参考図書

必要に応じてプリント等を配布します。

『保育白書』2014 年版　2500 円（税別）　発売　ひとなる書房

（開講時に割引購読の申込みを受け付けます。）

評価方法・評価割合

■ 小論文（レポート）　（割合：　４０％）

■ 出席　（割合：　２０％）

■ 発表　（割合：　４０％）

授業計画

●後期／主な内容

保育政策の最新動向（特徴的な問題をとりあげながら）を学びながら、制度・政策に求めるべき方向とその実現に向けた展望を考えます。

子ども・子育て支援新制度と、自治体行政の動向とその論点

保育所をめぐる規制緩和問題、待機児童問題、公立保育所の廃止・民営化、保育の市場化

幼稚園の状況

施設の統廃合と幼保の共用化、一体化、こども園

子育て支援にかかわる状況

困難を抱えた子どもたちや多様な家族を支える保育

保育施設の職場としての状況と保育政策

制度や条件改善を実現する展望　など

※なお本講座では、当面保育・幼児教育を保育と整理し、保育所や幼稚園にかかわる制度・政策を保育制度・政策と総称します。

学生へのメッセージ

保育に関わる制度や政策の問題を考えることは、一見、日常生活とのかい離があり、保育の現場でお仕事をされている方でも、敬遠しがちな分野です。

しかし、社会全体の保育水準の向上という課題を考えた場合、現場を支える制度や政策

の充実なくしてその実現は不可能といえます。また、欧州などでは、人間の基礎を培う幼児期の重要性に着目し、すべての子どもに豊かな保育を保障することが、活力ある社会を作り出すことにつながるとして、公的保育の充実に政府が動きだしています。このことは、保育の制度や政策を学ぶことが、今後の日本社会を展望するための重要な課題であることを示しています。

この講座では、政策や制度・法令等の基礎やその動向を学ぶことと同時に、保育をめぐって起きている種々の問題状況を取り上げ論議する中で、子どものためによりよい保育を実現するための課題と展望を見出していきたいと思います。

授業日程

①10 月 7 日（水）　②10 月 14 日（水）　③10 月 21 日（水）
④10 月 28 日（水）　⑤11 月 4 日（水）　⑥11 月 11 日（水）
⑦11 月 18 日（水）　⑧11 月 25 日（水）　⑨12 月 2 日（水）
⑩12 月 9 日（水）　⑪12 月 16 日（水）　⑫1 月 6 日（水）
⑬1 月 13 日（水）　⑭1 月 20 日（水）　⑮1 月 27 日（水）

現代保育課題研究Ｘ　　1 単位　**木曜日**　18：20～19：50

担当：　浜口 順子（お茶の水女子大学大学院 教授）ほか

主題と目標

本授業では、受講生自身の関心をもとに、乳幼児の保育や教育に関する問題や、保育現場などで直面するさまざまな課題について、各自研究テーマを設定し、ゼミ形式で話し合いながら研究レポートの作成をめざします。たとえば、子どもの発達や育ちと保育の関係、実践現場における子育て支援のあり方、観察記録やカンファレンスの活用、保育環境や表現の問題、海外の保育との比較や保育の歴史など、各自のテーマについて検討を行ったり、読書会をするなどして、問題関心を深めていきます。人数が多い場合は、研究テーマによって少人数のグループに分かれるなど、柔軟に対応したいと思います。学期末に、学習・研究結果をまとめて発表しますが、希望者には日本保育学会などでの発表もサポートします。

受講条件・その注意

保育現場をもつ社会人向きであるが、学生参加も可。

授業の形態

■講義　■討論　■講読　□実験　□実習　□実技　■発表　□演習

評価方法・評価割合

■ 出席（割合：50%）
■ 発表（割合：50%）

授業日程

①10 月 1 日（木）オリエンテーション
②10 月 8 日（木）図書館利用講習会（予定）
③～⑦　　（ほぼ隔週木曜日にゼミを実施）
⑧1 月 14 日（木）研究発表会①
⑨1 月 21 日（木）研究発表会②

比較保育実践研究Ⅴ　　1 単位　**集中講義**　11/15(日), 12/23(水祝)

担当：　金澤 妙子（大東文化大学文学部教育学科　准教授）

主題と目標

～私が体験したイタリアの保育的日常、そして考えたこと～

我が国でイタリアの保育と言えば、古くからはモンテッソーリ、その理論を取り入れたとする実践、1991 年(米国 News Week 誌掲載)以降は、レッジョエミリアの実践が注目される。これらをめぐる多数の論考と動きがイタリアの保育への注目度が高いような雰囲気を醸しても、傑出した理論や方法に基づく以外の保育、1.57 ショックと言われた 1990 年以降、我が国では広がりをみせつつある子育て支援に相当する分野の研究も情報も欠落している。時間も体力も知力も限られていた中ではあるが、現地での実践の観察やそこにかかわる人々の声とすり合わせながら知り得たイタリアの保育の実際を描き、イタリアの保育に関する情報と理解をその分だけは広げられるようにしたい。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

■講義　□討論　□講読　□実験　□実習　□実技　□発表　□演習

教科書・参考図書

初回、イタリアの保育の大雑把な把握ができる日本語資料を用意する予定です。毎回確認に使用するため、持参してください。

また、各回に随時関連資料を配布、あるいは閲覧できるようにしたいと考えています。

評価方法・評価割合

■ 小論文（レポート）　（割合：　70%）

■ 出席　（割合：　30%）

授業計画・日程

<u><11 月 15 日(日) 10:30-18:00></u> 保育園を中心に 4 コマで構成

1.(30 分):みんなで自己紹介、イタリアの就学前保育・教育制度の概略と全体の予定

2.(60 分×2):住民層の異なる地域にある二つの保育園の報告
～エミリアロマーニャ州リミニ市

3.その他の保育関連施設など

(60 分):夏の子育て支援～ベネト州パドヴァ市

(60 分):未就園児施設～トスカーナ州フィレンツェ市

(30 分):待機児のための家庭保育～エミリアロマーニャ州ボローニャ市

(30 分):エミリアロマーニャ州の家族支援プロジェクト冊子『どこで会いましょうか』(ボローニャ市役所提供)から、州内各市町村の取組(写真付きページ)を紹介の予定。

4.番外編

(30 分):街角チャイルドウォッチング in ITALY

<u><12 月 23 日(水祝)10:00-16:00></u> 幼稚園を中心に 3.5 コマで構成

5.(60 分×2):エミリアロマーニャ州リミニ市立幼稚園二園の報告
(障害児へのかかわりを含む)

6.(60 分): プロジェクト「オズの魔法使い」作品(DVD 視聴):エミリアロマーニャ州ボローニャ市立アンナ・フランク幼稚園(2006)

7.(60 分):ベネト州パドヴァ市立幼稚園(異年齢保育)の報告

8.(60 分):園で働く教師・保育士以外の大人のかかわりとその果たす役割
(園内の異職種間連携)

9.まとめ(15 分)

学生へのメッセージ

私は、2012 年 4 月～2013 年 3 月まで、エミリアロマーニャ州リミニ市、ベネト州パドヴァ市、トスカーナ州フィレンツェ市の幼稚園、保育園、その他の保育関連施設で保育観察を継続する機会がありました。これに、2005 年 11 月～2006 年 3 月までのエミリアロマーニャ州ボローニャ市での保育観察(市立幼稚園 1、市立保育園 2、園児の家庭で行う公立保育 2、協同組合出資の保育 1)で得たことを加えて、私の見た保育現場の姿をお伝えします。2012 年度の滞在では、「幼児の教育」第 112 巻第 1 号から五回にわたって「イタリア保育“おもいきって”参観記」として連載させていただきました。受講を考える際の参考になるかもしれません。どの地も子どもの写真には厳しいのですが、壁面はオッケーということでもあり、できるだけ写真を使って日々の保育が伝わるように工夫したいと考えています。

子ども家庭支援相談Ⅳ　　1 単位　**集中講義**　1/30(土), 1/31(日)

担当：　安治　陽子　（お茶の水女子大学 特任講師）

主題と目標

子どもと家族にかかわるさまざまな困難や課題が、乳幼児教育・保育の現場でどのように表れるのか、それらをどのように理解し、対応し、親子を支援してゆけるか、現場に即して実践的に考える。その際、効果的な支援を実現するために不可欠な園内連携や保育者自身のメンタルヘルスの維持・向上、中長期的な視野に立った機関連携や地域資源の活用などにも触れ、保育の専門性を生かした親子・家族支援の展開を具体的に考える。

授業の形態

■講義　■討論　□講読　□実験　□実習　□実技　□発表　□演習

教科書・参考図書

授業で紹介する。適宜レジュメや資料を配布する。

評価方法・評価割合

■ 小論文（レポート）（割合：50%）
■ 出席（割合：20%）
■ 討議（割合：30%）

授業計画

1 月 30 日（土）①9:00-10:30　②10:40-12:10　③13:20-14:50　④15:00-16:30

保育における相談・支援

①子どもの発達支援：発達特性の理解と保育環境の整備
②保護者支援：個の支援と仲間づくりによるピアサポート
③親子の関係性支援：子どもの育ちをともに楽しむ
④保育者自身のメンタルヘルス

1 月 31 日（日）①9:00-10:30　②10:40-12:10　③13:20-14:50　④15:00-15:45

相談・支援における連携

①園内連携：保育者のチームワーク、記録とカンファレンスの活用
②園外連携：機関連携、多機関協働における保育の役割
③事例検討
④乳幼児期からの継続的な支援：次へつなぐ支援とは

学生へのメッセージ

子どもや家族と日常的なかかわりをもち、地域に根ざした保育の現場は、その親子や地域社会について、量・質ともに豊かな情報を持っています。だからこそ保育者は、親子の支援を展開する際のキーパーソンになりえます。親子を理解し、支援するということにつ

いて、保育の現場に即して、ともに考えていきましょう。前学期の授業を履修していない方も受講できるよう、授業内容、構成を工夫します。

授業日程

1 月 30 日（土）①9:00-10:30　②10:40-12:10　③13:20-14:50　④15:00-16:30
1 月 31 日（日）⑤9:00-10:30　⑥10:40-12:10　⑦13:20-14:50　⑧15:00-15:45